

大分市感染症発生動向情報

(2026年第29週 7月13日～7月19日)

今週の動向について

(大分市保健所)

**新型コロナウイルス感染症の患者報告数は9.53でした。
前週より減少していますが、引き続き注意が必要です。**

新型コロナウイルス感染症は、新型コロナウイルスが原因で起こる疾患です。

〈**症状**〉 発熱や風邪症状(のどの痛み、咳、食欲不振、倦怠感、頭痛、下痢)が特徴です。

〈**経路**〉 手指に付着したウイルスや、感染者の咳、くしゃみや会話などで生じるウイルスを含んだ飛沫や空気中を漂うエアロゾルが、目や気道の粘膜に侵入することで感染します。

〈**予防**〉 流水と石けんによる手洗いやアルコール手指消毒剤の使用、部屋の換気、マスクの着用などの基本的な対策を心がけましょう。

**手足口病の患者報告数は3.82でした。
前週より減少していますが、警報レベルが続いており、引き続き注意が必要です。**

手足口病は、エンテロウイルスやコクサッキーウイルスによって起こる感染症です。

〈**症状**〉 3～5日ほどの潜伏期の後に、口の中や手のひら、足の底に2～3mmの水疱性の発疹が出ます。発熱がみられることがありますが、あまり高熱にはなりません。その他には、食欲不振やのどの痛みなどの症状がみられます。

〈**経路**〉 手指に付着したウイルスや、感染者の咳、くしゃみや会話などで生じるウイルスを含んだ飛沫が、目や気道の粘膜に侵入することで感染します。

〈**予防**〉 流水、石けんによる手洗いが基本です。症状がなくなっても、しばらくの間は便からウイルスが排泄されます。食事の前やトイレの後、おむつを交換した後は、流水と石けんでしっかりと手を洗い、タオルの共用は避け、使い捨てのペーパータオル等を使用しましょう。

**RSウイルス感染症の患者報告数は1.73でした。
前週より増加しており、引き続き注意が必要です。**

RSウイルス感染症は感染力が強く、2歳頃までにほぼ100%の子どもが感染するとされる呼吸器の感染症です。

〈**症状**〉 軽い風邪症状から重い肺炎までさまざまです。初感染の乳幼児では肺炎、細気管支炎、急性脳炎などの合併症がおこる場合もあります。

〈**経路**〉 感染している人の咳やくしゃみ等しぶきを吸い込む飛沫感染と、ウイルスが潜んでいる鼻水や唾液等が付着した物や手指を触ったりなめたりすることで感染する接触感染があります。

〈**予防**〉 流水、石けんによる手洗いが基本です。流水と石けんでしっかりと手を洗い、タオルの共用は避け、使い捨てのペーパータオル等を使用しましょう。保育園等、集団生活の場で感染が拡大しやすいため、おもちゃ等の消毒(アルコール等)に心がけましょう。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
	インフルエンザ	新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱（プール熱）	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘（水ぼうそう）	手足口病	伝染性紅斑（リンゴ病）	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	マイコプラズマ肺炎	
年齢区分														
0歳		0.24	1.00	0.09		0.73		0.64						
1～3歳		2.82	0.73	1.00	0.18	6.09	0.09	2.45		0.27	1.45		0.09	
4～6歳	0.06	1.18			0.82	1.73	0.27	0.55			0.09		0.55	
7～9歳		1.59			0.91	1.82	0.55				0.09		0.18	
10～14歳		1.94			0.27	2.73	0.18	0.09						
15～19歳		0.59				0.18	0.09							
20歳以上		1.18				0.18		0.09						
計（今週）	0.06		9.53	1.73	1.09	2.18	13.45	1.18	3.82	0.00	0.27	1.64	0.00	0.82
	A型	0.06												
	B型	0.00												
	不明	0.00												
70歳以上（再掲）	0.00		0.18											
前週	0.53	11.00	1.00	1.36	2.09	16.36	1.09	7.09	0.09	0.64	1.91	0.09	0.64	

※指定された医療機関(定点)から報告された患者数を、1定点あたりに概算して計上
(定点医療機関数 インフルエンザ・新型コロナウイルス17 小児科11)

急性呼吸器感染症・・・咳嗽(がいそう)、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれかの1つ以上の症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例

	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	合計
29週（今週）	6.82	36.29	13.65	6.35	1.65	1.24	1.76	1.24	0.65	0.59	0.41	0.59	71.24
28週（前週）	8.41	34.24	15.00	10.12	2.12	1.29	1.82	1.29	0.47	0.35	0.47	0.41	76.00

全数報告 (市内医療機関分)	年代	14歳以下	15～19歳	20～24歳	25歳以上	合計（今週）	合計（前週）
	麻しん	0	0	0	0	0	0
	風しん	0	0	0	0	0	0
	百日咳	0	0	0	0	0	0

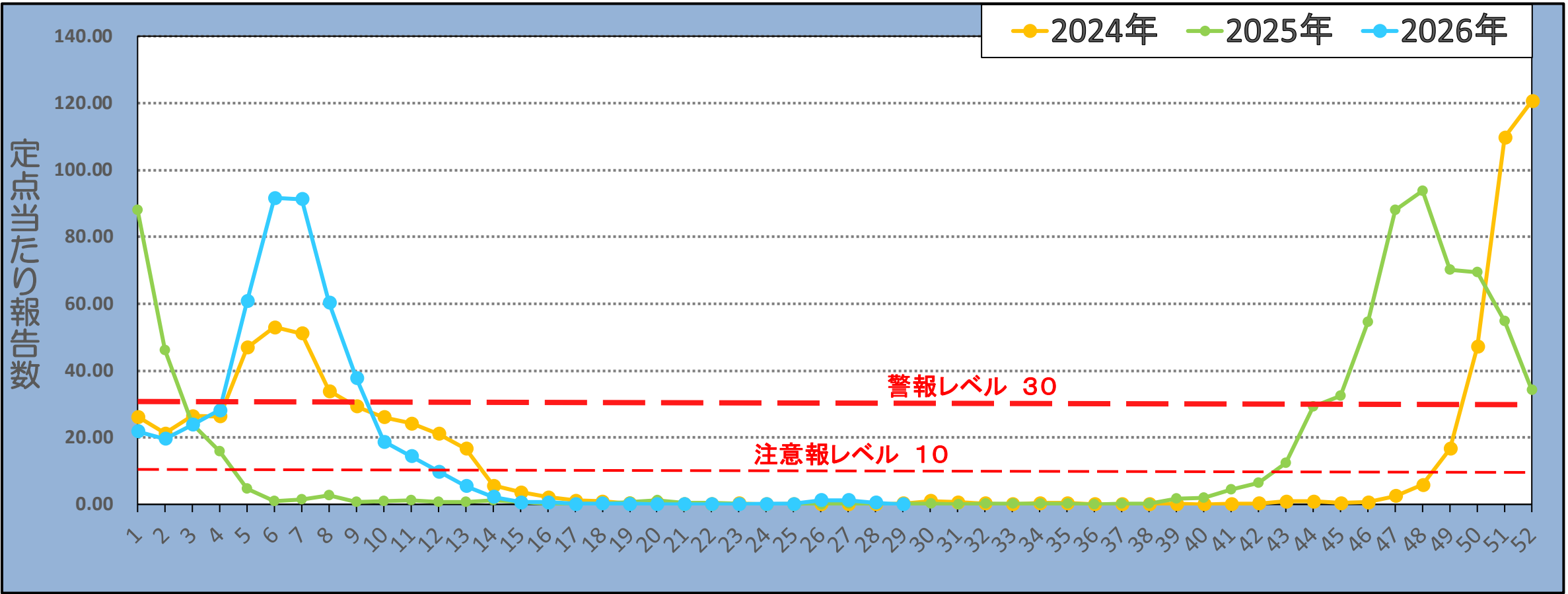
警報・注意報の基準値

疾患名	警報レベル		注意報レベル
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30	10	10
感染性胃腸炎	20	12	
手足口病	5	2	

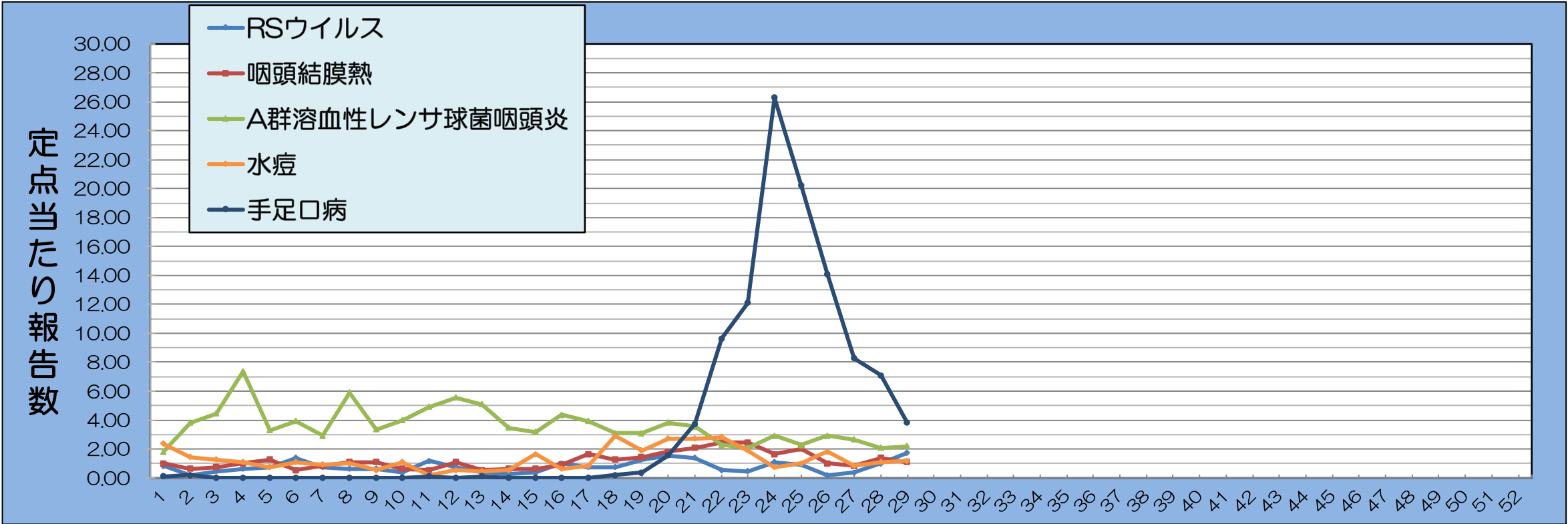
- ・警報レベル・・・大きな流行が発生または継続しつつあると疑われることを示します。
- ・注意報レベル・・・流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いこと、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを示します。

※新型コロナウイルス感染症については、厚生労働省が「警報レベル」および「注意報レベル」は定めていません。そのため、大分県ではインフルエンザと同じ基準値を採用しています。

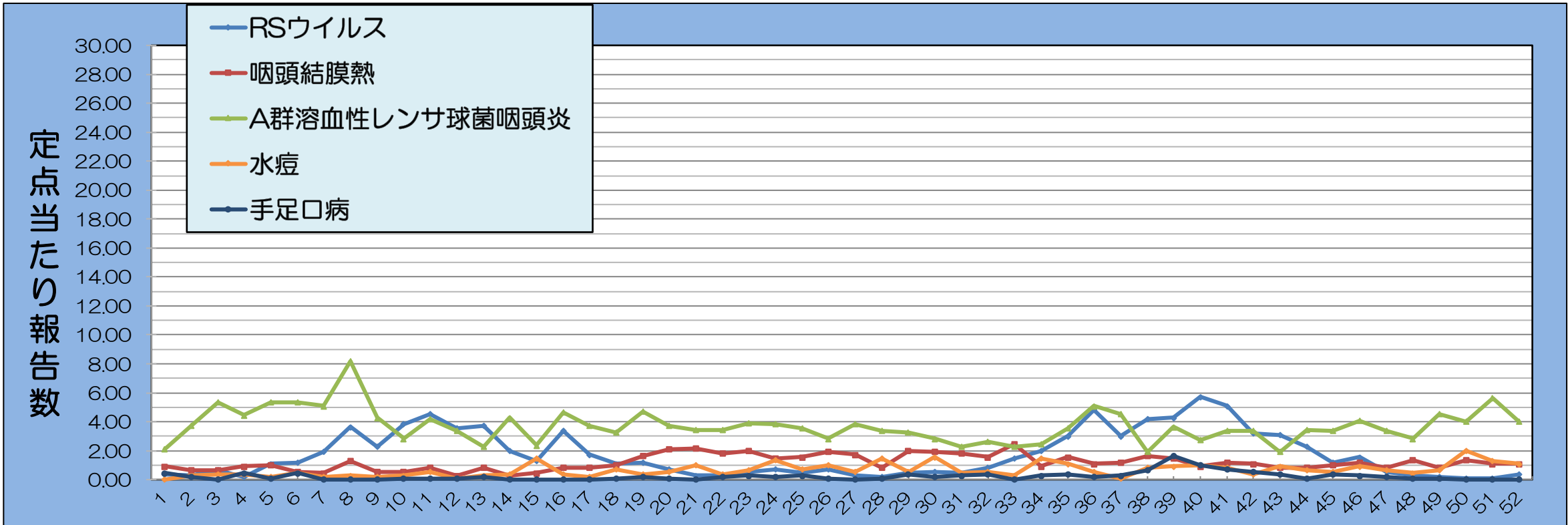
定点当たり報告数 インフルエンザ（3年間）



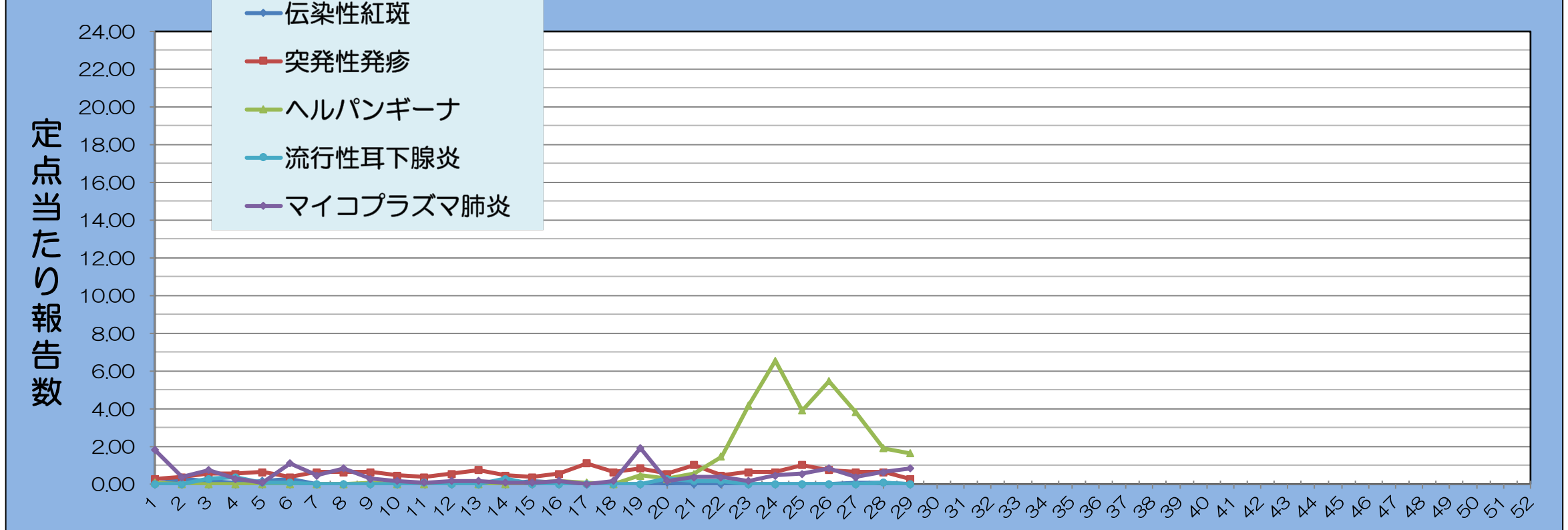
週別・疾病別患者数(グラフ)
2026



2025



2026



2025

